

# 香川高等専門学校

令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和5年度 実績報告
<p>(1)入学者の確保 ①-1 (a) 入学希望者及びそのステークホルダーを対象とした香川高専webコンテンツの充実や、香川県下の各中学校長や進路担当教員との情報交換等により、効果的な広報活動を行い、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。 ①-1 (b) 国公私立高等専門学校合同説明会に参加し、入学者確保の取り組みに努める。</p>	<p>(1)入学者の確保 ①-1(a) 入学者獲得に向けた入試関係のホームページ「Webオープンキャンパス」を開設し、8月上旬から発信している。動画(高専教育全般、専門7学科+一般教育科、課外活動、入試情報等)を作成し、Webコンテンツの充実を図った。https://www.kagawa-nct.ac.jp/school_affairs/OC/movie/openCampus_movie2023.html 中学校主催の行事「高校説明会」にて、香川県下の中学校43校を訪問し、中学校校長並びに進路担当教員と情報交換を密に行い、香川高専の特長や魅力を中学校関係者に積極的に発信した。 ①-1 (b) 国公私立高等専門学校合同説明会(東京・大阪)に参加し、他高専と連携した組織的、戦略的な入学者確保の取り組みに努めた。(参加者数 東京:約20組、大阪:約50組)</p>
<p>①-2 対象を絞った入学者募集説明会(中学3年生・保護者を対象、中学教員を対象)、体験入学・オープンキャンパス(中学1~3年生・保護者・中学教員を対象、小学生~中学生を対象)、個別学校説明会、中学校主催の高校説明会・進路相談会、県内・近隣県への中学校訪問、母校訪問(教員による訪問、学生による訪問)、塾訪問、地域の各種イベント等の機会を活用し、香川高専の特長や魅力を発信する。</p>	<p>①-2 以下のとおり、オープンキャンパス(体験入学)、入学者募集説明会等を開催し、入学者獲得に向けた活動を行った。 ・教員による中学校訪問・塾訪問(高松27校・詫間25校)・オープンキャンパス(体験入学)(中学生・保護者等対象)8月5、6日 詫間キャンパス(参加者中学生向け:357名、一般向け:87名)、8月19、20日 高松キャンパス(参加者586名)。・国公私立高等専門学校合同説明会(東京)個別相談ブースに出展(大阪)セミナー登壇、個別相談ブース、展示・体験ブースに出展。・入学者募集説明会(中学校教員対象)10月6日 詫間キャンパス(19校)、10月11日 高松キャンパス(35校)、10月23日 岡山市(10校)。・入学者募集説明会(中学生・保護者等対象)10月7日 詫間キャンパス(参加者152名)、10月14日 高松キャンパス(参加者164名)。・地区別学校説明会(中学生・保護者等対象)10月21日 岡山市(参加者8名)、倉敷市(参加者17名)。10月29日 綾川町(参加者15名)、丸亀市(参加者8名)。・Webオープンキャンパス 総再生回数2843回:15コンテンツ・中学校主催の高校説明会(高松23校・詫間20校)・学生による母校訪問(高松23校・詫間15校)・秋季オープンキャンパス(小学生・中学生対象)詫間キャンパス(11月3、4日)及び高松キャンパス(11月4、5日)にて開催。 ・中学校主催の高校説明会の機会に、校長及び進路指導担当教員と積極的に情報交換を行い、中学生・保護者、中学校が特に必要としている情報や不安要素を把握し、学校説明会や中学校主催の高校説明会における発信に活かしている。</p>
<p>②-1 女子小中学生向け広報資料を作成し、それらを活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子中学生・保護者を対象とした相談コーナー設置、研究を伴う課外活動及び各種イベント等への女子学生の積極的参加を支援・促進する等により、女子入学希望者確保に向けた取組を推進する。</p>	<p>②-1 オープンキャンパス(体験入学)、入学者募集説明会、高校説明会等において女子学生向けパンフレット(ガールズノート、高専女子キャリアデザインvol.1~6、輝く高専KOSEN女子、KOSEN探検)を配布した。また、Webオープンキャンパスや高校説明会、入学者募集説明会では、学校紹介での動画やナレーションにて多数の女子学生を起用し、その存在及び活躍をアピールした。</p>
<p>②-2 優秀な留学生の獲得に向けて、留学希望者を対象とした広報誌への発信並びに既存の広報物の英語版コンテンツや香川高専Webコンテンツの充実等に取り組み、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。</p>	<p>②-2 優秀な留学生の確保に向けて、留学希望者を対象とした機構本部とりまとめの広報誌へ香川高専の特長や魅力を掲載すると共に、広報物「学校要覧」の英語版の充実や、「学校案内」にて留学生ページを設けて留学生の活動紹介をするなど、香川高専を広くアピールした。</p>
<p>③ 香川高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施する。 また、令和4年度から導入した出願システムのWebエントリー運用方法について検討する。 さらに、追選考制度の実績のある先行高専から資料や実施状況などの情報を入手し検討する。</p>	<p>③ 他高専及び公立・私立高校の入学選抜方法の情報を収集し、推薦選抜における出願要件、学力入試における傾斜配点、面接の実施等に関して引き続き議論を行う予定である。また、推薦、学力ともWeb出願システムのエントリー期間の末日を出願書類受付期間の末日よりも数日前倒しした。さらに、先行高専による追選考制度の説明会に参加した。今後検討の予定である。四国地区教務主事会議において、追選考制度について議論を行った。</p>
<p>(2)教育課程の編成等 ①-1 “KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ採択事業「先端的複合技術者を育成する学科横断型複合教育プログラムの構築」(平成29年度)で設計・導入した新カリキュラムが完成することを踏まえ、その導入効果(数学・物理学強化、リベラルアーツの充実)、カリキュラムの問題点について検証する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等 ①-1 新カリキュラムの問題点について、選択科目の履修状況や成績等を踏まえて検証した。また、時間割作成上の問題等の改善のため、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程を一部改正した。</p>
<p>①-2(a) 高等専門学校の強み・特色をいかした専攻科の教育内容の充実を図るため、令和6年度以降の専攻科の教育課程見直しを行う。また、教員の研究指導力を強化するため、「高専教員の研究力強化プログラム」等を活用して専攻科の研究指導ができる教員を充実させる。 ①-2(b) 令和3年度から開始した香川大学と連携教育プログラムについて、更なるプログラム履修生拡充に向けて教育・研究支援体制を充実させる。さらに、先端技術を学べるよう、企業との共同研究に専攻科生を積極的に参加させる。</p>	<p>①-2(a) 今年度、新たに高専教員の研究力強化プログラムに1名(高松キャンパス)が採択された。2年間のプログラムのうち1年目が完了し、機構本部員との研究プロセス設計シート報告会にてコメントをいただいた。 ①-2(b) 令和5年度に創造工学専攻において4件の共同研究に専攻科生を参加させ、教育研究指導を行っている。</p>
<p>②-1 ・本校の海外協定校との単位認定制度や単位互換協定の締結の可能性を検討する。 ・本校が企画する、現地学生と協働して文化体験を行う「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」、海外インターンシップを組織的に推進する。</p>	<p>・海外協定校との学術交流協定の更新(3件)を行っており、単位認定制度などについても検討している。 ・研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」に専攻科2年生が10月から3か月間の予定で派遣している。なお、これは「インターンシップ」として単位認定される。また、今年度は「アクティビティ研修」に代わって、機構が主催する「タイ高専研修」への参加を推進する。</p>
<p>②-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。また、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。 海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるようにする。</p>	<p>英語科と協力して、一般事業者のオンライン英会話に6名の学生が参加しており、英語コミュニケーション能力のさらなる向上を期待する。 また、トビタテ! 留学JAPANに今年度派遣された本校学生に「受験記録」を作成いただき、来年度以降に派遣を希望する学生が閲覧できるようにした。なお、学生1名がトビタテ! 留学JAPANに応募した。 春季休暇中にネイティブ非常勤講師によるオンライン英会話教室を2週間開催し、のべ40名の学生が参加した。 海外派遣の様子を香川高専Instagramに投稿した。</p>
<p>③-1 他高専と連携を図って、四国・全国高等専門学校体育大会、四国・全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の運営実施に携わるとともに、各大会に参加する学生の活動を積極的に支援していく。</p>	<p>③-1 高松キャンパスが四国地区高等専門学校体育大会の運営担当校として大会を実施した。また両キャンパスで担当競技の運営を行った。 四国・全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等に参加した。各大会等へ参加する学生のために複数の顧問教員を配置して技術的な指導を行うばかりでなく、活動スペースの確保や予算面での補助を行うなどの支援を積極的に行った。ロボットコンテストにおいて全国大会出場、プログラミングコンテストにおいて最優秀賞、特別賞、敢闘賞を受賞した。</p>
<p>③-2 災害ボランティアや地域貢献の学生活動についてパンフレットの配布や特活などを利用して周知する。また、香川高等専門学校学生表彰規定に則り、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰を積極的に行う。</p>	<p>③-2 地域ボランティアやサポーター依頼等の案内について、学内の連絡システムや校内掲示板を活用して学生への周知を行った。 高松キャンパスでは高松市との受託事業として、サイエンスクラブが高松未来こども館においてサイエンス教室を5回行い、機械システム研究部がロボットの実演やミニロボ操縦体験を2回行った。ほかに、建設環境工学科の学生が一名能登地震の災害ボランティアに参加した。また、詫間キャンパスでは三豊市との連携協力として地域の理科学離れや高齢化対策の支援を行っている(計41件の協力)。</p>
<p>③-3 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に利用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開用チャンネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議参加等の機会拡充を図る。</p>	<p>③-3 Teamsによる「情報公開チャンネル」を活用し、今年度はこれまでに30件の奨学金制度や学内外の留学情報を提供している。(登録者数218名)</p>
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員については、博士の学位を有する者を条件に教員公募を実施する。</p>	<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施している。</p>
<p>② クロスアポイントメント制度を活用し、企業との人的交流を行う。</p>	<p>② 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を継続運用し、地域企業や大学・研究機関等との人的交流を推進した。 清水建設株式会社の土木技術本部上席エンジニア1名が本校の助教として建設環境工学科に所属している。</p>
<p>③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。</p>	<p>③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。 また、ライブイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。</p>
<p>④ 外国人教員(常勤、非常勤)を積極的な採用に努める。</p>	<p>④ 外国人教員も対象とした非常勤講師の公募を行った。</p>
<p>⑤ 長岡・豊橋の両技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流制度の候補者を募る。</p>	<p>⑤ 長岡、豊橋の両技術科学大学との人事交流制度を活用するため、継続して案内し、候補者を募った。また、国立高等専門学校間の教員人事交流の候補者を募った。</p>

<p style="text-align: center;"><b>令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>令和5年度 実績報告</b></p>
<p>⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等への積極的な教職員の受講を奨励する。</p>	<p>⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施した。(機構本部主催)            新任教員研修会:1名            (本校主催)            教育実践事例報告会:教員63名            新任教員研修:1名            FD・SD研修会:144名(教員78名、職員66名)            また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等へ積極的に教職員が受講するよう周知した。</p>
<p>⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦する。</p>	<p>⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦した。</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善            ① 学校および各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの点検を行うとともに、教育実践のPDCAサイクルを回すために下記項目を実施する。また、令和6年度からの改訂モデルコアカリキュラムに対応した教育課程になっているかの点検を行う。            [Plan] 点検したディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム設計になっているか検証する。            [Do] デジタル教材や遠隔対応を効果的に対面授業に取り入れるような教育手法の導入を推進する。            [Check] CBT(Computer-Based Testing)による学習到達度確認結果を授業改善に役立てる。学習状況と卒業時満足度の調査を実施する。            [Action] 教員の資質向上・スキルアップのためのFD研修の開催を推進する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善            ① 各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの点検を行い、整理・修正を実施した。また、改訂モデルコアカリキュラムへの対応状況については点検を実施した。            [Plan] ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの点検を実施した。今後、カリキュラムについて検証した。            [Do] デジタル教材や遠隔対応を効果的に対面授業に取り入れるような教育手法の導入を推進した。            [Check] CBT(Computer-Based Testing)を実施した。学習状況と卒業時満足度の調査を実施した。            [Action] 教員の資質向上・スキルアップのためのFD研修として、教育実践事例報告会を開催した。</p>
<p>② 自己点検・外部評価を実施するとともに、機関別認証評価を受審する。</p>	<p>令和5年度機関別認証評価を受審した。            令和5年11月に「令和4年度香川高等専門学校自己点検評価」の再点検を行った。            外部評価委員会は令和6年2月に実施した。</p>
<p>③-1 1～3年生を対象に学年・学科横断で導入した地域課題解決型のPBL科目「ブレ研究・研究基礎」の充実を図るとともに、各学科におけるPBL導入を推進する。これらのPBL科目において学生のコンピテンシー評価の実施とその結果の学生へのフィードバックを実施する。            また、地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育の支援を行う。</p>	<p>③-1 「ブレ研究」においては、学生主体のテーマも増え、例年通り学生祭における発表会を実施した。これらのPBL科目において学生のコンピテンシー評価の実施とその結果の学生へのフィードバックを実施した。            また、高松市、三豊市等と連携し、小中学生を対象とした科学教室やロボット教室を実施した。</p>
<p>③-2 香川高専の支援組織である香川高専産業技術振興会、地域企業等の協力を得て、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進する。</p>	<p>③-2 香川高専産業技術振興会、地域企業等において、インターンシップ等の共同教育は実施しているが、企業と連携した教育コンテンツの開発には至っていない。</p>
<p>③-3 セキュリティを含む情報教育について、K-SEC等の教材及び講習会を活用し、教育内容の高度化を図る。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)の受審を検討する。</p>	<p>③-3 セキュリティを含む情報教育について、K-SECの講習会等を周知し、参加を促した。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)の受審について検討した。</p>
<p>④ 技術科学大学のプログラムを用いて教育の質向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、連携を推進する。</p>	<p>④ 技術科学大学との連携を強化し、教育の質の向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、有機的な連携を推進した。            豊橋技術科学大学の高専連携教育プロジェクト 申請数:3件            高専-長岡技科大共同研究助成 申請数:2件</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等            ① カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医の専門職を配置し、学生相談体制を充実させ、以下の活動を実施する。            (a) 個々の案件に対する情報共有は、関係教員によるチームで対応する。担任や相談室員との面談やカウンセリングが必要な学生に関しては、本校非常勤カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して適切な支援を実施する。            (b) 合理的配慮の申請のあった学生に関しては、障がい学生支援委員会を開催し、支援を開始するとともに、進級時における支援継続の有無に関しても保護者と定期的に連絡をとりながら対応し、支援内容を決定する。支援についての合意書を学校、学生、保護者等の署名のうえで交付する。また、修学サポート室とも連携をはかりながら教育支援体制を強化する。            (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を実施する。教員、専門職員等の複数人面談を行うことで、より適切な支援を行う。            (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケートについては、機構本部の「学校適応感尺度調査(高専生活に関するアンケート)」を実施するだけでなく、本校独自の「こころと体の健康調査」も実施する。            (e) 学生対象に「自殺防止」、「メンタルヘルス」、「ソーシャルスキルトレーニング」に関する講演や研修を実施する。            (f) 教職員対象に「発達障がい」、「学生(ヤング)ケアラー」等に関する講習会の実施や定期的な事例報告会を実施し学生支援の向上に繋げる。            (g) 本校作成の面談基本シートをもとにした、担任による全学生面談を実施する。            (h) 両キャンパスの学生相談室交流を実施、有益な情報交換を行い、学生支援の質を充実させる。</p>	<p>【高松】            (a)            ・学生相談室に相談が入った場合は、担任・関係教員・学科長・SC・SSWと情報共有しながら、チームによるサポート体制を強化している。            ・長期休み前の支援として、学生や保護者に向けて学外の相談窓口を周知した。            ・SSWが窓口となり、外部機関として若者サポートステーション、NPO等への連絡や学生と現地訪問を行った。            ・SSWが寮での相談日を設定し、寮行事(スポーツ大会等)に参加した。寮生向けアンケートについて事前・事後にSSWと相談しながら実施している。            ・今年度より1回2時間の専門医を、学生・保護者・教職員・専門職が対象で配置した。            (b)合理的配慮の要望のあった学生に対して障がい学生支援委員会を開催し、支援を行った(5名継続・5名新規[新生入1人、2年生1人、3年生1人、5年生2人])。            (c)合理的配慮の入学前面談を実施した(新生入1名)。オープンキャンパス時に、合理的配慮の相談ブースを設置(8/19、20、10/14、11/4、5は「なんでも相談ブース」内での実施)し、サイボウズで情報共有を行った。            (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケート「高専生活に関するアンケート」を年2回実施した(4月・10月実施)。学生相談室の面談基準を設定し、面談対象者には「心とからだの健康調査」にも回答してもらうこと、必要に応じてSCに繋げることで自殺防止に努めた。            (e) 1、2年生向けの自殺防止講演会を開催。本校SCが1年生対象で11月15日、本校SSWが2年生対象で12月13日に実施。            (f) 全教員参加を呼び掛けた事例検討会を年2回実施(第1回6/22、第2回11/30)            (g) 年度始めに、本校作成の面談基本シートと相談室アンケート結果を活用した担任による全学生面談を実施した。            【詫間】            (a)(a)            (i)個々の案件に対して(学生・教職員の相談・連絡やアンケート結果等から)、関係教職員・SC・SSWが情報共有(グループウェア・コミュニケーションツール)も利用しながら連携、チームとして対応、支援を行っている。            (ii)学生・保護者・教職員・SC・SSWに向けた専門医の相談を月1回2時間実施している。            (iii)休業者や不登校学生の希望者に対して、SSWによる家庭訪問を行っている。            (iv)子育て支援課や児童相談所と連携しながら、見守り対象学生の支援や、定期的に情報共有を行なっている(面談・電話)。            (v)夏季休業期間中・冬季休業期間中・学年末休業中の家庭での見守りを保護者に依頼する文書を配布し、相談窓口を案内した。            (vi)学習相談の増加に伴い、教務関係者と連携、修学サポート室による支援を進めている。            (vii)常日頃から、通学生同様に寮生に対しても、寮の関係教職員と連携している。例えば、事件や事故、アンケート等で、寮生に、見守りが必要な学生が見つかった場合、寮関係教職員や保護者と連携して、見守りを実施している。            (b)今年度、合理的配慮を希望した2年生1名、3年生2名、5年生1名に対して、障がい学生支援委員会を開催し、合意書を作成・署名、合理的配慮に基づいた支援を行っている。昨年度から継続の2年生1名は、定期的に面談を行い、支援を継続している。合理的配慮までは希望しないものの学習支援を希望している。1年生2名(新生入と原級生)、2年生1名は、修学サポート対象学生として、関係教職員による支援を行っている。            (c)合理的配慮・支援のための入学前面談を、学生相談室(室長・副室長)・SCが実施した(新生入1名)。            (d)全学生を対象に「学校適応感尺度調査」(5月実施済、10月実施済)及び「こころと体の健康調査」(7月実施済、1月実施済)を各2回実施し、気になる学生を抽出、SCやSSWとの面談に繋げている。            (e)            (i)自殺防止講演会を、11月16日(4年生対象)、1月15日(2年生対象)に実施した。依存症に関する講演会を、1月29日(1年生対象)に実施した。            (ii)1～3年生対象に、SCによるメンタルヘルスセミナーを、学年毎にテーマを変えて、クラス単位で実施した(4月～7月)。            (f)教職員対象に、SSWに関する研修会を9月22日に実施した。2つのテーマ「不登校といじめについて」、「発達障害の機関連携について」を扱った。また、外部講師による、LGBT(多様性)に関する講演会を11月29日に実施した。            (g)面談基本シートを利用し、4月に全学生を対象とした担任による面談を開始した。学生全員の面談終了した担任とSCによる面談を実施し、情報共有と、担任-SC間の連携を密にした。            【高松・詫間】            (h)今年度は対面での交流会は未実施だが、詫間と高松の相談室長スレッドを作成しサイボウズ上で情報交換を行った。</p>
<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや一斉メール、香川高専だより、電子掲示、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。また、税制上の優遇措置を含めた情報を産業界や地域振興会などの行事において積極的に発信し、奨学金制度の拡充に努める。</p>	<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報を、HPや一斉メール送信、香川高専だより、電子掲示、教室掲示、定期周知文(「学生への連絡事項」)を通して学生に迅速に周知した。その結果、36団体・組織等の奨学金情報を学生に提供し、述べ202名が採択された。</p>
<p>③            ・産官や同窓会からの支援により、低学年からのキャリア教育を実施する。            ・キャリアサポートセンターが提供するインターンシップ・就職・進学情報提供や相談に、Microsoft 365やホームページを活用する。            ・学生の就職支援をサイボウズなどを利用して学科長または担任と連携して実施する。            ・4年生のインターンシップ報告書を、低学年に情報提供する。            ・5年生の就職・進学活動報告書を、4年生に情報提供する。            ・同窓会や産業界技術振興会との連携により、卒業生を活用したキャリア教育や就職・進学支援を実施する。</p>	<p>③            ・3年生に技術士による出前授業を実施。(高松キャンパス)            ・Microsoft365と学内限定ホームページを活用し、キャリアサポートセンターからインターンシップ・就職・進学情報の提供を行っている。(両キャンパス)            ・学生情報をサイボウズを利用し、学科長・担任と連携している。(両キャンパス)            ・4年生のインターンシップ報告書をセンター内のファイルにより低学年に情報提供している。(高松キャンパス)            ・5年生の就職・進学活動報告書を、学内Web・センター内のファイルにより4年生に情報提供している。(両キャンパス)            ・卒業生による低学年向けキャリアガイダンスを計画し、一部実施している。(詫間キャンパス)</p>

令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和5年度 実績報告
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>① 香川高専ホームページの教員の技術シーズや研究成果などの情報発信の強化する。Researchmapの更新を促し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等の情報を更新する。地域自治体等と連携した理科教育や社会人教育のための講座を積極的に実施する。</p>	<p>① 香川県の外部団体であるかがわ産業支援財団と連携して地域の社会人向け講習会を5回実施した。Researchmapの更新を全教員行なった。高松市と連携した市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエでの小中学生向けイベント企画では、今年度17回実施した。この連携事業に関しては平成27年度からプレ実施、平成28年度から受託事業として実施しており、イベント回数は昨年度100回を超え、今後も継続的な協力への依頼を受けている。学生祭と同時開催のイベント「サイエンスフェスタ」にてプレ研究の中間発表を行い、地域に向けての学生の研究周知を推進した。三豊市・三豊市少年少女発明クラブと連携した理科学離れ対策を令和5年度は21回実施し、三豊市少年少女発明クラブ登録人数77人、参加延べ人数582人となり活発に実施できた。また地域からの要請で理科学離れ対策事業を約10回実施した。令和5年度より三豊市・三豊市教育委員会と連携し市内の中学校でのプログラミング教育を香川高専のノウハウと教材を用いて実施した。(令和6年度以降も継続して実施予定)</p>
<p>②-1 共同研究・受託研究の受入れを促進し、その成果情報の発信や知的財産化に努める。</p> <p>②-2 地域産業界や自治体、(一社)みとよAI推進機構:MAIZM、東京大学松尾研究室と連携し、AI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいてAIの基礎・応用教育を行う。さらに社会実装を目指したビジネス教育、アントレプレナーシップ教育を実施する。</p> <p>②-3 国立高等専門学校間の研究ネットワークを活用し、以下の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川高専を含む高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」内の情報交換等を積極的に進め、それぞれの高専が持っている地域課題(地域企業からの共同研究、自治体からの依頼等)を高専間で連携し、(一社)みとよAI推進機構:MAIZM、東京大学松尾研究室の協力を得て解決を目指す。</li> <li>・KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築(KOSEN-REIM)に参画し、社会基盤メンテナンス教育センター(iMec)において、地域における社会基盤のメンテナンス人材育成事業、インフラに関する産官学地域連携である「香川社会基盤メンテナンス推進協議会」における情報発信および地域課題解決を行う。</li> </ul>	<p>②-1 共同研究1件、受託研究1件が行われている。</p> <p>②-2 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業によりAIの基礎(AI-①)、AIの応用(AI-②)、ビジネス講座(AI-③)、アントレプレナー講座(AI-④)を実施した。(AI-①、②は令和5年度単位、AI-③、④は令和6年度単位に認定)</p> <p>②-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専AIプロジェクトはKOSENファームでオーガナイズドセッションを行った。</li> <li>日時:9月19日(火)9時～10時20分</li> <li>テーマ:OS-41 高専AIプロジェクトの推進と高専学生の起業について</li> <li>・一関高専主催の「一関高専学生×起業家交流会」に学生4名、指導教員1名が参加した。高専AIプロジェクトメンバーである一関高専・長岡高専の学生・教職員と情報交換した。</li> <li>日時:12月21日(木)</li> <li>・橋梁インフラメンテナンス人材育成に関して、橋梁点検(基礎編)講習会を4回(5/18-19、8/24-25、10/5-6)、橋梁点検(応用編)を1回(3/1-3/3)を実施した。香川社会基盤メンテナンス推進協議会の総会を8/30に実施したとともに部会活動を継続している。</li> </ul>
<p>③-1 報道機関等との連携を強化し、報道機関等に対して積極的に情報提供を行う。また、ホームページを通じた情報発信を強化する。</p>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川高専の広報に関する基本方針を策定した。それに基づき、本校の活動や成果を積極的に社会に発信し、各ステークホルダーに応じて、戦略的な広報活動を計画、実施した。</li> <li>・日本経済新聞社、四国新聞社、特許庁(広報誌「とっきょ」)等の取材依頼に応じた。また、7件の記者クラブへの投げ込みを行った。</li> <li>・ホームページの情報を随時更新し、学生活動・教育研究活動の情報発信を行った。</li> <li>・SNSを利用した情報発信を強化するため、ソーシャルメディア運用ポリシーを策定した。これまでに運用しているFacebookに加え、新たにInstagramとYouTubeを公式アカウントとして運用し、情報発信を行った。</li> <li>・WebオープンキャンパスをHPトップの上部に設置し、入試広報を効果的に行なった。</li> </ul>
<p>③-2 報道機関等への積極的な情報提供により、本校の強み・特色・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を広く発信する。また、報道された内容等については機構に随時報告する。</p>	<p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPトップに74件の「お知らせ」と249件の「トピックス」を掲載し、学生活動、各種イベント、地域連携、国際交流の取組等の情報を広く発信した。</li> <li>・香川高専の法被と職を作成し、広報活動に利用した。</li> <li>・広報誌として、HP掲載の「学校要覧」、「学校案内」、「研究紀要」、「年報」、「図書館だより」、「高専だより」の情報を更新、また香川高専の女子学生の日常を紹介した「ガールズノート」を追加した。</li> <li>・学生の活躍を、オープンラウンジで映写、また、「総務・広報室だより」としてさら連絡網で配信し、在校生・保護者・教職員・来校者へ情報発信を行った。</li> <li>・高専の活動に関する記事等が新聞等メディアに掲載された際は、機構に随時報告した。本年度の掲載件数は67件で、昨年度に比べて272%増加した。</li> <li>・広告やイベント出店、プロモーションビデオ作成等の広報活動について検討した。</li> </ul>
<p>①-1 機構本部の要請に応じて、第4ブロック高専やJICA四国等と連携し、諸外国への「KOSEN」の導入支援に協力する。</p>	<p>今のところ要請がない。</p>
<p>①-2 機構本部の要請に応じて、モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p>	<p>今のところ要請がない。</p>
<p>①-3 機構本部の要請に応じて、タイにおける「KOSEN」の導入支援として、昨年度までタイ高専に常駐した専門学科教員の経験を中心として教員研修や学校運営向上への助言等に協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部の要請を受けて、沖縄高専で実施されるタイ高専学生の1か月研修をサポートした。</li> <li>・機構本部の要請を受けて、2027年と2028年のタイ高専1か月研修の本校受入を承諾した。</li> <li>・機構本部の要請を受けて、2024年度のタイ高専から編入学生の受入れを了承した。</li> </ul>
<p>①-4 機構本部の要請に応じて、ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p>	<p>今のところ要請がない。</p>
<p>①-5 本校の協定校等に対して、「KOSEN」についての正しい理解の浸透に努める。</p>	<p>本校の学校要覧の英語版を作成しており、協定校(IUT/RMUTT/南台科技大)を訪問した際には配布や説明を行った。</p>
<p>② 機構本部の「KOSEN」導入支援に係る取組みに協力する。</p>	<p>本校の学校要覧の英語版を作成しており、協定校(IUT/RMUTT/南台科技大)を訪問した際には配布や説明を行った。</p>
<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の海外協定校との単位認定制度や単位互換協定の締結の可能性を検討する。</li> <li>・本校が企画する、現地学生と協働して文化体験を行う「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」、海外インターンシップを組織的に推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外協定校との学術交流協定の更新(3件)を行っており、単位認定制度などについても検討している。</li> <li>・研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」に専攻科2年生が10月から3か月間の予定で派遣している。なお、これは「インターンシップ」として単位認定される。また、今年度は「アクティビティ研修」に代わって、機構が主催する「タイ高専研修」への参加を推進し、香川高専から8名参加した。</li> </ul>
<p>③-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。また、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるようにする。</p>	<p>英語科と協力して、一般事業者のオンライン英会話に6名の学生が参加しており、英語コミュニケーション能力のさらなる向上を期待する。また、トビタテ！留学JAPANに今年度派遣された本校学生に「受験記録」を作成いただき、来年度以降に派遣を希望する学生が閲覧できるようにした。なお、学生1名がトビタテ！留学JAPANに応募した。春季休暇中にネイティブ非常勤講師によるオンライン英会話教室を2週間開催し、のべ40名の学生が参加した。海外派遣の様子を香川高専Instagramに投稿した。</p>
<p>③-3 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に利用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開チャンネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議参加等の機会拡充を図る。</p>	<p>Teamsによる「情報公開チャンネル」を活用し、今年度はこれまでに30件の奨学金制度や学内外の留学情報を提供している。</p>
<p>④-1 優秀な留学生の獲得に向けて、留学希望者を対象とした広報誌への発信並びに既存の広報物の英語版コンテンツや香川高専Webコンテンツの充実等に取り組み、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。</p>	<p>国際交流室では様々なイベントについて、公式Facebookにて日本語と英語の両方で紹介している。</p>
<p>④-2 タイからの留学生受入れについて先行的に実施している高専との情報交換を行い、受入れ態勢を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、新居浜高専で実施されているタイ高専1か月研修を視察し、情報交換するため、本校から3名の教員が訪問した。</li> <li>・2024年度にタイ高専からの編入学生を受け入れる。</li> </ul>
<p>⑤ 国際交流における危機管理体制について検討する。海外渡航する学生・教職員に対して、海外旅行保険に加入するよう徹底する。本校の留学生に関して、学業成績や資格外活動の状況等を定期的に把握し、適切な在籍管理に取り込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全管理マニュアル」を新たに作成し、特に学生の派遣前に行うべき対策を強化し、「海外英語研修」や「グローバルエンジニア研修プログラム」に活かした。</li> <li>・本校留学生の学業成績や資格外活動の状況を把握し、在籍管理を徹底している。</li> </ul>

令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和5年度 実績報告
2. 業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 一般管理費削減のため、コスト削減を引き続き実施する。調達においては、競争性、透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努める。	2. 2.1 一般管理費等の効率化 一般競争契約においては、公告期間の十分な確保等を行い、複数社による応札、応募業者の増加に努め、競争性、透明性の確保と、経費削減に努めた。  コスト削減策として、し尿収集業務を定期収集契約へ変更した。(R5年度下半期支出見込額 臨時汲取の場合:13、139円、定期汲取の場合:11、322円)
2.2 給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行う。	2.2 給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行った。
2.3 契約の適正化 業務運営の効率化及び国民の信頼の確保の観点から、随意契約の適正化(透明性の確保、公正な競争の促進)を推進し、契約は原則として一般競争入札等により行う。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づき、入札要件の緩和や広告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努める。	2.3 契約の適正化 入札及び契約の適正な実施については、入札及び契約に係る情報をホームページに公表し、仕様策定の段階でカタログなどを精査し、複数社による応札、応募業者の増加に努めた。
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと予算配分方針を検討し、企画運営会議で審議し、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 機構本部から示達された当初予算について、予算計画及び予算配分方針に基づき予算編成を行い、企画運営会議での審議を経て、教員に周知を行った。併せて、科研費をはじめとする競争的資金や外部資金の獲得、経費削減、予算執行・管理の計画的執行について、依頼した。  また、業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理している。
3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・教職員による企業見学会、イブニングセミナー、シーズ発表会等の開催により、香川高等専門学校産業技術振興会会員企業等との交流を深めることで、受託研究・共同研究等を推進し、外部資金の獲得を図る。 ・科学研究費補助金や各種財団研究支援への応募を推奨し、研究資金の獲得に努める。 ・同窓会等と連携して卒業生が就職した企業等との交流を強化することで、香川高専支援基金等への寄付獲得に努める。	3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・8/23に教職員向け企業見学会(三菱電機(株)受配電システム製作所及び川田工業(株))を実施した。12月に香川高等専門学校産業技術振興会と連携し、イブニングセミナーを1回実施。9/8にシーズ発表会を実施し、産業技術振興会会員企業に対し6件の研究発表を行った。共同研究等推進支援事業について学内に広く公募し、①萌芽的研究助成に4件、②共同研究推進助成に1件の助成を行い、会員企業等との共同研究の促進をはかった。 ・科学研究費補助金は令和5年度新規採択課題が9件であった。校長裁量経費申請書類と科研費応募書類の共有による応募支援や学内公募要領説明会を実施し、令和6年度科学研究費助成事業への申請率は83%であった。各種財団の研究助成情報については、グループウェア掲示板に掲示し、教員へ周知している。 ・学生祭と同日に同窓会と協力の上ホームカミングディを開催し、学生と卒業生との交流をはかるとともに、ポスター展示にて香川高専支援基金のPRを行った。
4. 短期借入金の限度額 該当無し	
5. 2以下の不要財産について、譲渡又は現物を国庫に納付する。 ②香川高等専門学校 木太町団地(香川県高松市木太町字川西1990番4、2012番2、2013番)1,139.61㎡ 昭和町団地(香川県高松市昭和町一丁目202番、203番)1,074.37㎡ については、それぞれ不動産売買契約書を令和4年度に締結済みであり、令和5年度早期に代金納付及び所有権の移転を完了させる。	5.2 木太町団地、昭和町団地ともに代金納付及び所有権移転済である。
該当無し	
7. 剰余金の使途 該当無し	
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1 環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント(キャンパスマスタープラン・施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等)を推進する。また、寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を踏まえた整備計画に基づき、必要に応じて整備を推進する。	8. 8.1 環境・施設マネジメント委員会及び同キャンパス部会を開催し、施設整備等について協議決定しており、協議内容を踏まえ機構本部施設課・整備課との連絡調整を実施しながら、施設マネジメントを推進しており、キャンパスマスタープランの見直しを完了並びに学生寮の整備計画についても、高松キャンパス・詫間キャンパス共に計画を制定している。  また、令和7年度概算要求事業の検討及び令和6年度当続予算要求を実施した。 整備としては、学内予算による修繕他、令和5年度当続事業5件の実施並びに令和5年度補正事業である混住型学生寮改修について、設計業務の発注を実施した。
①-2 既に完了している構造体及び非構造部材(屋内運動場の照明器具等)の耐震化について、耐震性能の保全に努める。	①-2 耐震部材について今年度の点検を実施した。
② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促す。「実験実習安全必携」については、学内ホームページに掲載して周知する。	② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促した。「実験実習安全必携」については、学内ホームページに掲載して周知を行った。
③ 女子学生の修学環境改善、女子寮の居住環境改善、女性教職員の就業環境改善について、必要に応じて整備を推進する。	③ 便所について、性的少数者(LGBT)や障害者など誰もが使いやすい機能等を検討し、「高松キャンパス管理部及び一般教育棟1階の学生教職員・外来者が多数利用する老朽化した便所を『誰でもトイレ』の新規設置も含めたりニューアル」と「屋外便所並びに屋外シャワー室の老朽化した建物の『誰でもトイレ』を含めたりニューアル」について、令和5年度当続予算事業として実施した。  また、令和5年度補正事業である詫間キャンパスの混住型学生寮改修について、設計業務の発注を実施した。
8.2 人事に関する計画 (1)方針 ① 外部人材として、引き続き、課外活動指導員、カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医を起用する。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行う。	8.2 人事に関する計画 (1)方針 ① 外部人材として課外活動指導員9名、カウンセラー7名、ソーシャルワーカー3名、心療内科医3名起用した。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行った。
② 提示された教員人員枠の中で教員配置を行う。また、人材育成のための計画的な人事交流を行う。	② 提示された教員人員枠を完了させた。機構内で行う高専間人事交流について希望を募ったが、マッチングしなかったため結果として成立していない。
③ 弾力的な教員人員枠の活用について検討する。	③ 弾力的な教員人員枠の運用方針を用いて、若手教員を確保した。
④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を有する者を条件に教員公募を実施する。	④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施している。
④-2 クロスアポイントメント制度を活用し、企業との人的交流を行う。	④-2 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を活用し、地域企業や大学・研究機関等との人的交流を推進した。清水建設株式会社の土木技術本部 上席エンジニア1名が本校の助教として建設環境工学科に所属している。
④-3 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。	④-3 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライブイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。
④-4 外国人教員(常勤、非常勤)を積極的な採用に努める。	④-4 外国人教員も対象とした非常勤講師の公募を行った。
④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニュースレターの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。	④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニュースレターの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。機構本部からの研修会の案内等を学内周知した。令和5年度女性教員管理職育成研修には、1名の教員が参加した。

令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和5年度 実績報告
<p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図る。 事務職員は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)、機構本部、国及び近隣大学等が実施する研修会へ積極的に参加させる。</p>	<p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図った。 (本校主催) 新任教員研修:1名 FD・SD研修会:144名(教員78名、職員69名) (機構本部主催)3件、6名 (人事院四国事務局主催)5件、7名 (大学主催)4件、7名 (他高専主催)2件、3名 また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)へ積極的に参加させた。 (SPOD研修)1件、1名 なお、SPOD研修では、講師を招へいし、加盟校の事務職員を対象にした「マインドマップ入門講座」を対面形式で実施した。(参加者:18名(他機関4名、本校14名))</p>
<p>(2) 人員に関する指標 各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。</p>	<p>(2) 人員に関する指標 各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。 (機構本部主催) 新任教員研修会:1名 初任職員研修会:3名 新任課長研修会:2名 (人事院四国事務局主催) 四国地区中堅係員研修:1名 四国地区係長研修:2名 四国地区女性職員研修:1名 四国地区マネジメント研修:2名 給与実務初任者等研修会:1名 (大学主催) 中国・四国地区国立大学法人等係長研修:1名 中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会:2名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修:3名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会:1名 (他高等主催) 四国地区国立高等専門学校技術職員研修:2名 西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会:1名 (SPOD研修) 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ(課長・課長補佐相当級対象)):1名</p>
<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 法人のプロジェクト管理組織(PMO)として位置付けられた情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化に取り組む。 ② 法人のDX(デジタルトランスフォーメーション)に持続的に取り組むため、情報戦略推進本部の指示に従い、情報担当関係者を研修に参加させ、人材確保を図る。 ③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、令和2年度に受けた法人が行う情報セキュリティ監査の結果及び法人が受けた内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)が実施するNISC監査の結果の機構本部による評価を、香川高専にて評価し必要な対策を講じる。 ④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育(e-learning)及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育に参加する。 ⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者(CISO)及び機構本部情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の指示に従い、今後の情報セキュリティ対策を進める。 ⑥ 国立高等専門学校機構CSIRT(高専機構CSIRT)に協力し、インシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>	<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進めている。 ① 法人のプロジェクト管理組織(PMO)として位置付けられた情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化に取り組んだ。「(高専統一ネットワークシステム)設定修正」、「マルウェア対策システム」共同調達参加、「メール誤送信防止システム」共同調達参加、旅費システム等各種事務システムの高専機構内共同利用) ② 法人のDX(デジタルトランスフォーメーション)に持続的に取り組むため、情報戦略推進本部からの情報関係研修を周知し、情報担当関係者を研修に参加させ、人材確保を図った。 ③ IT資産管理を強化するため、機構本部の指示に従い、6月28日ソフトウェア管理台帳を提出した。第2回情報セキュリティ委員会にて、香川高等専門学校ソフトウェア管理規程等を整備した。 ④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育(e-learning)を1回、インシデント対応訓練を1回、実施した。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーを1回、受講した。(情報セキュリティ教育受講者157名、情報セキュリティトップセミナー受講者17名) ⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者(CISO)及び機構本部情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の指示に従い、高専統一ネットワークシステムの設定変更、メールサーバの機構Microsoft365への移行を実施した。 ⑥ 国立高等専門学校機構CSIRT(高専機構CSIRT)に協力し、インシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施した。</p>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 必要に応じ、WEB会議システムを活用した各種校内会議を開催する。</p>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 集合又はWeb会議システムにて4月28日、5月30日、6月27日、7月25日、9月25日、10月24日、11月28日、12月19日、1月25日、2月27日、3月26日の機構の企画委員会並びに4月27日、9月26日、1月26日の機構の校長・事務部長会議に参加した。また、機構が開催する各種会議・セミナーにweb会議等により参加した。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、速やかに学内での情報共有を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、都度メール、資料の回覧、企画運営会議及び教員会議での報告等により速やかに学内での情報共有を行った。</p>
<p>①-3 各種会議において、必要に応じ本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>①-3 第4ブロック校長会議(第1回6月1日開催(対面およびオンラインのハイブリッド形式)、第2回10月26日開催(対面およびオンラインのハイブリッド形式)、第3回2月19日開催(対面およびオンラインのハイブリッド形式))、四国地区国立高等専門学校校長・事務部長会議(第1回5月9日開催(集合会議)、第2回2月21日開催(集合会議))、各種部課長会議等において、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-1 理事長と校長との面談等において、本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>②-1 7月28日に実施された理事長ヒアリングにおいて、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、全教職員を対象にしたコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図る。また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行う。</p>	<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、本校主催のFD・SD研修会、ハラスメント防止研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図った。 また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加した。</p>
<p>②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報伝達・対策を行う。</p>	<p>②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達を行い適切な対策等を講じた。</p>
<p>③ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。 高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を実施し、監査結果については、情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認する。</p>	<p>③ 機構本部作成の「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査をR6/3/11-15に実施した。  規則に則った会計事務処理の確認及び運用上におけるキャンパス間での整合性を確認した。  高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査をR5/12/13に実施し(弓削商船高専)、監査結果については、情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認した。</p>
<p>④ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。また、研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。</p>	<p>④ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(4月)に新任教職員を対象とした「研究費等不正使用防止に関する研修会」を実施した。  また、8～9月にかけて、教職員を対象とした「FD・SD研修会」を(オンデマンド視聴方式)実施し、有限責任監査法人トーマツによるコンプライアンスについての講演の研修動画の視聴及び確認テストを実施し、研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。</p>
<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定める。</p>	<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定めた。</p>